

2003 ミニ・ディスクロージャー

見てわかる“しんきん”



新庄信用金庫ステンドグラス「北の春」は、当金庫の本店新築時に郷土出身の
一水会会員、近岡善次郎画伯の原画・監修によって創作されたものです。

「北国に春が来て、遠山にまだ雪が残っているのに梅、桃、桜が同時に咲き出し、少し遅れてサクランボの緑
がかった白い花が咲く、それが雪のやっと消えたかげろうのたなびく野を埋める。働く人も春の野に出るこ
とは喜びである。春風を胸いっぱい吸って、本当に生きている喜びを味わう。この気持ちの良さは、東北生まれ
の私にとって最高の喜びとして一生忘れず思い続けることだろう。」

近岡 善次郎

基本方針

- 郷土の繁栄に心から奉仕する
- 内容の堅実な金庫にする
- 和顔愛語に満ちた明朗な
庫風を創る
- 待遇の優れた金庫にする



ごあいさつ

皆様には、平素より私ども信用金庫をお引立ていただきまして、誠にありがとうございます。

この「2003年度版ミニ・ディスクロージャー誌」は当金庫第84期（平成14年度）の決算計数と事業の概況をご報告するとともに、当金庫の内容等をわかりやすくご説明申し上げるために作成いたしました。ぜひ、ご一読いただきますようお願い申し上げます。

さて、平成14年度も、資産デフレは沈静化の兆しが見えぬままに推移し、企業経営者の皆様には、まことに厳しい状況が続いております。このような中、当金庫は、どのような厳しい外部環境の変化にも、健全経営を堅持し皆様のお役に立つことを目標に経営努力を重ねて参りました。

おかげさまでもちまして、平成14年度において当金庫は自己資本比率12.9%と国内基準の4%を大幅に上回る水準を堅持するとともに、本業での利益を表す「コア業務純益」でも前年度を17百万円上回る3億6千万円を計上いたしました。

しかしながら、地域経済は疲弊の度合いを一段と強めてきており、資産の健全化を一層進めるために、償却・引当を行った結果、経常利益及び当期利益におきましては、残念ながら前年度を下回る結果となっております。

また、いかなる外部環境の変化にもお客様の円滑な金融を担うことが、地域金融機関である信用金庫の重要な役割でありますから、特にこの長引く不況下におきましては、ある程度の不良債権の発生はやむを得ないところでもあります。

私どもは、今後とも地域に根ざした業務運営に努め、これまでお客様とつくり上げてまいりました絆（リレーションシップ）をもとに、さらに“真心のこもったサービス”を提供してまいりたいと考えております。

今後とも、皆様方の一層のご支援、ご愛顧を賜りますようお願いを申し上げます。

平成15年8月

理事長 井上洋一郎

Q1 決算の状況について

A

おかげさまで14年度決算では、3億円のコア業務純益（本業での利益）、および27百万円の当期利益を計上することができました。

●資産内容の健全化を第一に考えました。

景気の低迷により地域経済においても、中小企業は依然として厳しい状況が続いており、金融機関は全般的に、貸出金を中心とした効率的な資金運用が難しく、収益環境は厳しさを増しております。

平成15年3月末の美容は、**預金残高554億円（前年とほぼ同じ）、貸出金残高408億円（前年比0.7%増）**となりました。

収益面では、資産内容の一層の健全化に向け、貸出金および有価証券等の償却16百万円、貸引当金の繰入236百万円を実施した結果、**経常利益52百万円、当期利益27百万円**、本業での利益を示す**コア業務純益364百万円**となりました。

（百万円 以下単位未満は切り捨て）

	平成12年度	平成13年度	平成14年度
	第82期	第83期	第84期
業務純益	584	447	241
コア業務純益	411	347	364
経常利益	311	109	52
当期利益	151	110	27

〈しんきん〉のコストパフォーマンス

当金庫の**オーバーヘッドレシオ（OHR）**は、12年度は66.6%、13年度は74.4%、14年度は79.4%と14年度は5.0ポイント上昇しております。経営合理化・効率化の指標としてよく使われるOHRは、「**粗利益をあげるためにどれくらいの経費を使ったか？**」を比率で示したものです。つまり、当金庫は100円の粗利益をあげるために使う経費が66円→74円→79円と推移しているというわけです。14年度に比率が上昇した理由としては、経費は削減努力により計画通りに減少したものの、金利の低下等による貸出金利収入の減少や、株式市場の低迷等もあり有価証券の運用収益が振るわなかったことなどによるものですが、今後も引き続き経営合理化による、**ムダのないスリムな経営**を目指してまいります。

なお、出資の配当率は年4%を継続させていただき、今期の収益から内部に積み上げた自己資本は、引き続き地元への融資等の原資などとして活用させていただきます。

景気の先行きはまだまだ楽観できないものの、どんな不透明な状況下でも、皆様へのご融資資金を安定的に供給できるよう、〈しんきん〉はこれからも頑張っております。

なにとぞご理解賜りますようお願い申し上げます。

$$\text{自己資本比率} = \frac{\text{自己資本額}}{\text{リスク・アセット}} \times 100$$

経営健全性の指標
「自己資本比率」は

12.90%

国内基準4%の**3倍以上**
高い安全性を確保しています。



Q2 自己資本比率について

A

前年度を上回る12.90%になりました。
「健全で問題のない金融機関」の国内基準を大きく上回る水準となっています。

●自己資本比率は金融機関の安全性を示す判断指標のひとつです。

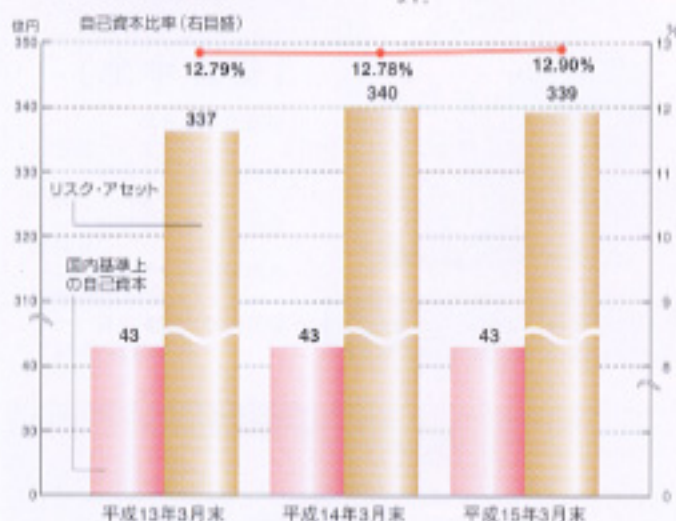
自己資本比率は金融機関の安全性・健全性を示す指標のひとつで、資産に対する自己資本(出資金・利益準備金・積立金など)の割合、つまり「いざというときの備えの水準」を表しています。信用金庫のように国内のみで営業活動を行う金融機関については4%あれば経営体質が健全であると判断されています。

●自己資本比率は12.90%と高水準を維持。

当金庫は経営の健全性向上のために、自己資本の充実を重点課題のひとつとして、毎年取益の中から、安定した内部留保の蓄積を行ってまいりました。14年度はQ1でもご説明いたしましたとおり、長引く不況の影響から、お取引先の業績の悪化などから資産内容の健全化を優先させたため減益となったものの、自己資本比率は12.90%と高水準を維持しております。

自己資本比率の推移

中国内での金融業務を行う「信用金庫」に対して「早期不正発見」が発動される事案は、その自己資本比率が4%未満となった場合と定められています。当金庫はこの国内基準を超過しています。



預金・貸出金の推移

●預金残高の推移

(億円)

	平成11年 3月末	平成12年 3月末	平成13年 3月末	平成14年 3月末	平成15年 3月末
個人預金	403	424	438	445	450
法人預金	114	118	115	108	103
預金残高合計	517	543	553	553	554

積極的に取引差額の拡充に努めた結果、不況の長期化等のため法人預金が減少したものの、個人預金を中心に増加し、前年度とほぼ同じ554億円の残高となりました。

●貸出金・代理貸付残高の推移

(億円)

	平成11年 3月末	平成12年 3月末	平成13年 3月末	平成14年 3月末	平成15年 3月末
貸出金残高	384	396	396	405	408
代理貸付残高	65	66	62	56	50
計	449	463	459	462	459

景気を反映し、貸小売業、製造業などが減少したものの、アパート建築資金や住宅建設資金需要に積極的に応じた結果、貸出金は3億円増加し、408億円となりました。一方、住宅金融公庫貸付等の減少により代理貸付は、6億円減少して50億円となりました。

Q3 不良債権の状況について

A

従来にも増して厳格にルールを守り、適正な処理を行っています。

●積極的な不良債権処理を行っています。

金融機関は、企業の運転資金や設備資金、また個人のお客様向けに各種のローンなどを取り扱っていますが、融資先が不幸にも経営不振になったり倒産したりすると、貸出金の回収ができなくなる場合があります。そうなる可能性の高い貸出金を不良債権といいます。

金融機関は、経営の健全性を高めるために、資産の健全度を自己査定によって評価し、これに基づき不良債権の適正な償却や引当をすることが義務付けられております。

当金庫は**資産の健全化を経営の最重要課題と位置づけ**、厳格な自己査定基準に基づき適正な償却・引当を行うなど、**不良債権の一掃を図っております。**

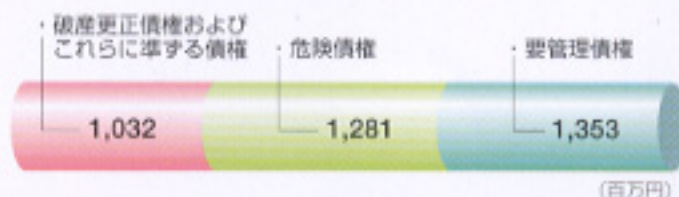
15年3月期の状況

(百万円)

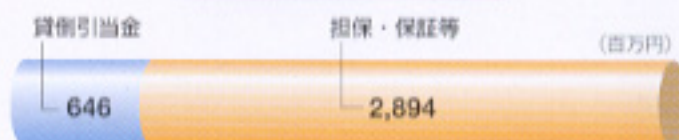
リスク管理債権	金額	金融再生法債権	金額
・破綻先債権	278	・破産更正債権およびこれらに準ずる債権	1,032
・延滞債権	2,021	・危険債権	1,281
・3ヵ月以上延滞債権	42	・要管理債権	1,353
・貸出条件緩和債権	1,310	・正常債権	38,357
合計	3,653	合計	42,024

金融再生法に基づく不良債権とその保全状況

●金融再生法上の不良債権計 3,666百万円



保全額計 3,541百万円



保全率 96.59% (3,541÷3,666×100=96.59%)

中小零細企業に携わる方々や、個人のお客様の円滑な金融を担うことが、地域金融機関である信用金庫の最も大切な役割ですから、特にこの長引く不況下においては、ある程度の不良債権の発生はやむを得ないと考えております。

上のグラフにある通り、不良債権合計36億円のうち35億円は貸倒引当金(6億円)および担保・優良保証等(28億円)により保全されております。

Q4 預金保護のしくみについて

A 預金保険制度による預金保護のうち、当座預金や普通預金などの全額保護は17年3月末まで延長されました。

●預金等の保護の範囲 (14年12月現在の預金保険法による)

▼平成14年4月 ▼平成17年4月		
預金保険対象	当座預金 普通預金 別段預金	全額保護 利息がつかない等の条件を満たす預金は(注1)全額保護
	定期預金 定期積金 通知預金 貯蓄預金等	合算して元本1,000万円(注2)までとその利息等を保護 1,000万円を超える部分は破綻金融機関の財産の状況に応じて支払い
預金保険対象外	外貨預金等	破綻金融機関の財産の状況に応じて支払い

(注1)「決済用預金」といい、「無利息・要求払い・決済サービスを提供できる」という3条件を満たすものです。

(注2)15年4月以降に合併・事業譲受を行った金融機関には、下記「特措法」により、保護金額に特別措置があります。

●合併後1年間は保護金額に特別措置があります。

「金融機関等の組織再編成の促進に関する特別措置法」により、15年4月以降に合併等を行った金融機関については、合併期日から1年間に限り、預金保護金額の上限を預金者1人あたり「元本1,000万円×合併等に関わった金融機関の数」とその利息とすることになりました。

Q5 業界全体の健全性について

A 信用金庫の中央機関として資金量25兆円の「信金中央金庫」がバックアップしています。また独自のセーフティー・ネットにより、業界全体の健全性の向上にも努力しています。

●機能強化計画にも業界全体で意欲的に取り組んでいます。

15年3月に金融庁は「金融再生プログラム」の地域金融機関(地銀、第2地銀、信金、信組)版として「**リレーションシップバンキングの機能強化に関するアクションプログラム**」を発表しました。これは、平成15・16年度の2年間で集中的に地域金融機関の機能を強化することで、中小企業金融の再生を図り地域経済を活性化させようというものです。私どもは、アクションプログラムに沿った、信用金庫らしい機能強化策を策定し実行するために、業界全体の英知を結集して取り組んでまいります。

●健全性を維持するために、他の業界には見られない信用金庫独自の安全網を作り上げています。

金融機関の破綻を未然に防止する手立てとして、金融当局による「早期是正措置」がありますが、信用金庫業界では、これに加えて独自の安全網を用意しています。「信金中金」が個々の信用金庫の財務内容等を毎月こまかくチェックし、問題がある場合には改善のための指導や、支援を行う「信用金庫経営力強化制度」です。金融庁の早期是正措置の発動を待たずに、自主的に経営内容を改善するために、業界独自の仕組みを作り上げていっています。

もっと知ってほしい、その実力。信用金庫と信金中金。

※信用金庫登記件数は2013年3月末現在のものです。
※信金中金登記件数は2013年3月末現在のものです。
ただし、資金量は2013年4月末現在、配当利回りは2013年度予想配当金をもとに2013年4月末時点により算出したものです。

地域経済のパートナー
【信用金庫】

- 豊富な資金量103兆円
- 巨大なネットワーク
…全国326金庫、8,300店舗
- Face to Faceの事業展開
……役員員数12万7千人
- 多数の出資者
……900万人



信用金庫と信用中金は、手を携えて地域経済の繁栄に貢献しています。

信用金庫のセントラルバンク
【信金中金】

- 豊富な資金量25兆円
- 高い自己資本比率
……16%
- 低い不良債権比率
……0.49%
- 邦銀トップの格付
……AAA(格付機関JCR)
- 高配当の優先出資
……配当利回り3.15%



心に響く、シーンがある。

Favorite Scene.



PRIVATE BOOTH
LEXINGTON
SHINJO レキシントン新庄(文化ホール)
山形県新庄市本町2番9号

日本の原風景が見えるエコポリス、Mogamiエリア。その中心地Shinjo City、古くから交通の要所として発展してきた雪まつりのふるさと。長年の夢だった新幹線のターミナル新庄駅の実現を機に完成した小さな文化ホール、レキシントンShinjo。心地よい空間があなをお待ちしております。



新庄信用金庫

※より詳しい内容は各営業店に信用金庫法に基づくディスクロージャー誌「新庄信用金庫の現況」を備えていますので、ご覧ください。
ホームページ <http://www.shinjosk.com/>

■本店/山形県新庄市本町2番9号 ■作成/本部(総合企画室) ☎0233-22-4222 FAX.0233-23-1690 0120-255-744